



由良比女神社

西ノ島町には『イカ寄せの浜』をはじめイカにまつわる伝説が数多く残っています。また、まつりや特産品、ゆるキャラ、町のマンホールにいたるまで、様々な場面でイカが登場し、町民にとってとても身近な存在です。そんな『イカのまち・西ノ島』に関する事柄を拾い集めてみました。

イカ寄せの浜伝説 〱 由良比女神社 〱

神在月に出雲で行われる神々の集まりから由良比女命ゆらひめのみことが帰る途中、乗っていた芋桶から手を海水に浸したところ、悪戯好きのイカがその手に噛みついて由良比女命を驚かせてしまいました。

悪戯の相手が神様だと知らなかったイカはお詫びとして毎冬に大量の仲間を伴って由良比女神社の前の浜に寄るようになった、という伝説が残っています。



実際にイカ寄せの浜には大量のイカが押し寄せることもあり、イカ寄せの浜のすぐ近くにある由

良比女神社は延喜式神名帳に見える古社で漁業神、海上守護神として信仰を集めています。由良比女神社の灯笼や拝殿には、イカが彫られており、全国でも珍しいとされています。

由良比女神社拝殿正面扉上に彫られているイカ。波に乗って泳いでいるような姿で彫られています。



〱 灯笼の台座部分に彫られているイカ。



イカのマンホール

大群のイカ

イカ寄せの浜の伝説のとおり、実際明治・大正から昭和20年代にかけて毎年のようにイカの大群が押し寄せ、毎年10月1日には由良の浜辺に30件くらいのイカの番小屋が建ち並び、お金の時代には、当時の警察官が小舟いっぱいイカを拾って売却し、これを事業資金に転職したという話まで残っています。

現在は、環境や海況の変化やイカを獲る船が多くなったことから以前のような光景にお目にかかることは滅多にありません。

また、いつの日か、イカ寄せの浜一杯に広がる何万というイカの大群が押し寄せることを願っています。

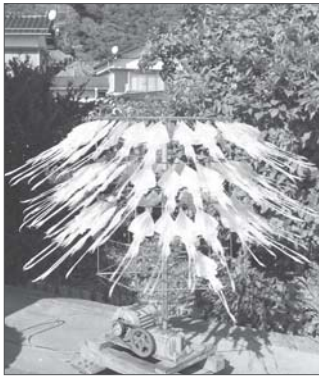


▲平成18年2月、大量の真イカがイカ寄せの浜に寄ってきました。その数、約5,000杯。浜一面がイカで埋まりました。

風物詩



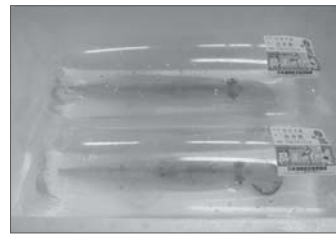
毎年、イカ寄せの浜のある由良湾内に大型のドータリイカ（紅ソデイカ）が姿を現します。ドータリイカが訪れはじめる1月頃から、子供たちが小遣い稼ぎにイカを捕獲する光景は浦郷の冬の風物詩となっています。



イカが獲れだし、スルメ作りが行われる頃登場する回転イカ干し機。回転しながらイカを乾燥させるため、ハエがたからないうえに乾燥が早く、とても便利です。

特産品

地元漁師が一杯ずつ釣り上げたイカを注文が入った時に、水槽から丁寧にすくいあげ、一匹ずつパッケージし、活きたままお届けする「活イカパック」。新鮮なイカのお刺身は透き通るほど透明な身をしており、絶品の一言。



活イカ活っちゃん

西ノ島町のイメージキャラクターとして、町のPRに大きく貢献している活イカ活っちゃん姉弟。様々なイベントやメディアに登場し、西ノ島町の宣伝をしてれています。

ポロシャツやピンバッチ、ステッカー、紙袋など関連グッズもかわいく評判。これからの活躍にも期待しています。

おまつり

毎年10月下旬行われる『イカまぐろまつり』。まぐろの解体ショーや新鮮なイカとマグロの握り寿司が安価で販売されます。



各地で大活躍!



▲別府港フェリー第2ターミナルの前で